

第 6 1 回地域農林経済学会大会のご案内

2011 年 6 月

地域農林経済学会

第 61 回地域農林経済学会大会を下記の要領で開催します。今大会では、これまでの大会シンポジウムに替えて大会講演および 3 つの大会セッションを開催します。また地域シンポジウムの開催も予定しておりますので、会員の皆様のご参加はもとより、非会員の皆様のご参加も大いに歓迎いたします。

1. 期 日 2011 年 10 月 21 日 (金) ~ 23 日 (日)

2. 日程および会場

2-1. 開催地：愛媛大学農学部 (樽味キャンパス)

住所 〒790-8566 松山市樽味 3 丁目 5 番 7 号

連絡先 大隈 満 Tel 089-946-9838 E-mail michi@agr.ehime-u.ac.jp

2-2. 地域農林経済学会大会日程

【第 1 日】 10 月 21 日 (金) 地域シンポジウム (愛媛大学農学部本館 2 階大会議室)

【第 2 日】 10 月 22 日 (土) 大会講演および大会セッション

(愛媛大学農学部大講義室ほか)

1. 挨拶 [9:30~10:00] (農学部大講義室) (受付開始 9:00)
2. 大会講演 [10:00~12:00] (農学部大講義室)
3. 大会セッション [13:00~16:00] (農学部大講義室、2 号館 1 階第 11 講義室、本館 2 階大会議室)
4. 総 会 [16:30~17:30] (農学部大講義室)
5. 懇親会 [18:00~20:00] (農学部生協食堂)

【第 3 日】 10 月 23 日 (日) 個別報告 (愛媛大学農学部 2 号館 2 ~ 4 階講義室)

1. 個別報告 [9:30~14:30]
2. 個別報告優秀賞授賞式 [15:00~15:30]

【その他各種会議】

10 月 21 日 (金)

編集委員会 [16:30~18:00] (農学部本館 6 階 618 室)

支部代表者連絡会議 [17:00~18:00] (農学部本館 6 階 607 室)

理事会 [18:00~20:00] (農学部本館 2 階大会議室)

10 月 23 日 (日)

個別報告優秀賞審査委員会 [12:00~13:00] (農学部 2 号館 2 階第 24 演習室)

* 大会会場の地図・交通案内等は、本文末尾をご参照ください。

2-3. 参加費用等

・大会参加費用：

普通会員 3,000 円、非会員 4,000 円

学生会員、学生非会員 1,000 円

・懇親会費：一般 4,000 円、 学生 3,000 円

(懇親会は、22 日の総会終了後に開催されますが、若手研究者をはじめ、皆様の積極的な参加を期待しています。懇親会の参加申し込みについては、下記 7 (3) を参照してください)

3. 地域シンポジウム 10月21日(金) [13:00~16:30]

テーマ：「愛媛発—地域農業の革新的局面を切り開く」

座長：胡 柏 (愛媛大学農学部)

座長解題：「地域農業の革新的局面をどう切り開くか」

報告 1：「大規模で革新的な環境保全型柑橘経営の技術と経営」

武田敦年 (株式会社 みかん職人武田屋代表取締役)

報告 2：「無茶々園有機農業 30 年と新しい展開の方向」

大津清次 (株式会社 地域法人無茶々園代表取締役)

報告 3：「大規模で革新的な水田経営の展開条件」

牧 秀宣 (有限会社 ジェイ・ヴィングファーム代表取締役)

報告 4：「JA の地産地消と農産物販売事業の革新」

小田原 巧 (愛媛県農業協同組合中央会)

4. 大会講演 10月22日(土) [10:00~12:00]

リーマンショック以降、先進国経済の停滞、アジアなどの経済的發展を背景に、TPP をはじめ世界経済の新たな枠組みづくりの模索が始まっている。新たな枠組みの中で、日本農業はどのような位置を占めるべきか、東日本大震災と原発事故という大きな出来事も踏まえながら、多面的な視点からの検討が求められているといえよう。

本大会では、これまでのシンポジウム方式に替えて大会講演として、それぞれの分野の専門家に話題提供と問題提起をしてもらうこととした。講演 1 では、鈴木宣弘氏から、TPP をめぐる最近の動向とその問題点、これからの日本農業の占めるべき位置についてご報告いただく。また講演 2 では巖善平氏に、躍進著しい中国経済の動向を中心に、これからの東アジア経済の展望、そのもとでの日本農業の位置についてご報告いただく。

講演 1：「TPP の動向と日本農業の立ち位置」

鈴木宣弘 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

講演 2：「これからの東アジア経済と日本農業—中国経済を中心に—」

巖 善平 (同志社大学大学院グローバルスタディーズ研究科)

5. 大会セッション 10月22日(土) [13:00~16:00]

本大会では、3会場において大会セッションを開催することとした。大会セッションは、学会員に広くテーマ等を募集し、それぞれのコーディネータが中心になって組織したものである。多くの会員の参加とディスカッションを期待したい。

第1セッション：「環境変動下における大豆生産・流通の課題と方向」

コーディネータ：梅本 雅（中央農業総合研究センター）

梅本 雅（中央農業総合研究センター）「座長解題－大豆に関する経済分析の意義と論点－」

増田忠義（総合地球環境学研究所）「世界の大豆需給の構造変化と日本市場へのインパクト」

島田信二（中央農業総合研究センター）「大豆作技術の現状と課題－水田大豆の低位不安定性の要因と改善方向－」

田口光弘（中央農業総合研究センター）「大豆加工製品の消費動向とスキャンデータによる商品選択分析」

笹原和哉（中央農業総合研究センター）「大豆生産流通の特徴と制度的課題－大豆品質評価に関する不整合と対応方向－」

梅本 雅（中央農業総合研究センター）「大豆作を巡る制度変化と大豆作経営への影響」

後藤一寿（九州沖縄農業研究センター）「大豆における多様な用途別需要の開拓と企業の製品戦略」

第2セッション：「アフリカ小農問題とモラルエコノミー：地域間比較の視点から」

コーディネータ：池上甲一（近畿大学）

池上甲一（近畿大学）（座長兼）「アフリカ小農問題からみる関係性の論理－モラルエコノミーとフェアトレードを素材に－」

杉村和彦（福井県立大学）「アフリカ小農問題とモラルエコノミー」

坂井真紀子（緑のサヘル）「農牧民の変容とモラルエコノミー」

津村文彦（福井県立大学）「家畜飼養におけるモラルエコノミーの地域間比較－アフリカと東南アジアのあいだ－」

鶴田 格（近畿大学）「モラルエコノミー論からみたフェアトレード：アフリカと東南アジアを事例に」

辻村英之（京都大学）「キリマンジャロの農家経済経営とフェアトレード：利益最大化と家計安全保障」

第3セッション：「途上国農村経済研究の新潮流」

コーディネータ：福井清一（京都大学） 座長：浅見淳之（京都大学）

福井清一（京都大学）「開発ミクロ経済学の新潮流」

三輪加奈（釧路公立大学）「農村貧困家計における子供の健康と教育」

矢倉研二郎（阪南大学）「出稼ぎが農村家計・農村経済に与える影響」

不破信彦（早稲田大学）「農業の技術革新：最近の文献動向と SRI 稲作技術導入実験の事例」

6. 個別報告 10月23日(日) [9:30~14:30]

- ①個人・連名報告は1件につき、30分(報告20分、質疑応答10分)を予定しています。
- ②筆頭報告者には、会員の資格が必要*です。非会員の方には、入会関係書類を送付しますので、至急、学会事務局までお申し出ください(学会HPからのダウンロードも可能です)。また、同一筆頭報告者による報告は一報告に限りますので、ご注意ください。
*個別報告の申込期限(8月18日(木))までに、入会金と年会費の納入が必要です。
- ③個別報告の申し込み方法、プレゼンテーション用ファイルの送付、個別報告論文投稿等については、【別紙】の1を参照してください。特に、昨年度と同様、WEB化に移行しているので、十分に注意してください。
- ④昨年度より、若手会員の学会個別報告への積極的参加の奨励および顕彰を目的として、個別報告を行う若手会員(2012年4月1日時点で37歳未満の会員)で、個別報告優秀賞に応募する方を対象に審査を行い、優れた報告に対して個別報告優秀賞を授与することになりました(表彰規定、審査手続きの詳細については、『農林業問題研究』第46巻1号(2010年6月号)を参照のこと・近日中に学会HPに掲載の予定)。個別報告優秀賞受賞論文については、選考委員会が(受賞者の意向を確認したうえで)、学会誌編集委員会に対し、本誌・研究論文として推薦いたしますので、若手会員の積極的な応募を期待します。なお、個別報告優秀賞応募の方法については、【別紙】の2を参照してください。

7. その他連絡事項

(1) 宿泊について

事務局では斡旋いたしませんので、各自でご予約ください。ご参考までに、以下に松山市内の宿泊施設の一覧を示します。

なお、農協観光愛媛支店(Tel 089-948-5381)では、ご希望の方に予約等の便宜をおはかりする用意があるとのことですので、ご希望の方は、各自のご判断でお申し込みください。

名称	住所	電話番号
松山東急イン	松山市一番町3-3-1	089-941-0109
東横イン松山一番町	松山市一番町1-10-8	089-941-1045
松山全日空ホテル	松山市一番町3-2-1	089-933-5511
ホテルNo1松山	松山市千舟町2-7-3	089-921-6666
ホテルサンルート松山	松山市宮田町391-8	089-933-2811
松山ワシントンホテルプラザ	松山市二番町1-7-1	089-945-8111
KKR 道後ゆづき	松山市岩崎町1-7-37	089-941-2934
にぎたつ会館	松山市道後姫塚118-2	089-941-3939
道後プリンスホテル	松山市道後姫塚100	089-947-5111

(2) 昼食について

大会開催期間中は、大学内の生協食堂が営業しております。また、大学周辺には食堂が多数ございますので、こちらもご利用ください（当日は「食堂マップ」を配布いたします）。

(3) 懇親会の申し込みについて

食事・飲み物類の準備の都合がございますので、懇親会への参加を希望する方は、事前にお申し込み下さいますようお願い申し上げます。申し込みは、e-mailにて、愛媛大学・松岡 淳まで下記の要領でご連絡下さい。なお、会費は当日、受付で頂戴いたします。

宛先：atsushim@agr.ehime-u.ac.jp

メールの件名：懇親会申し込み

メール本文：①氏名、②所属、③連絡先住所、④連絡先電話番号

(同じ所属機関で、複数名を取りまとめてお送り頂いても構いません)

申込期限：10月14日(金)

(4) 各種会議場所について

10月21日(金)は、理事会は農学部本館2階大会議室、支部代表者連絡会議は本館6階607室、編集委員会は本館6階618室にて行います。10月23日(日)の個別報告優秀賞審査委員会は2号館2階第24演習室にて行います。

(5) 愛媛大学農学部への交通手段について

●松山空港からJR松山駅、松山市駅まで

伊予鉄バスをご利用の場合

JR松山駅まで 松山空港リムジンバス「JR松山駅前」下車

松山市駅まで 松山空港リムジンバス「松山市駅」下車

●松山観光港からJR松山駅、松山市駅まで

伊予鉄バスをご利用の場合

JR松山駅まで 松山観光港リムジンバス「JR松山駅前」下車

松山市駅まで 松山観光港リムジンバス「松山市駅」下車

●JR松山駅から愛媛大学農学部まで

伊予鉄バスをご利用の場合

8番線(東野経由道後温泉駅前行き)「愛大農学部前」下車(約25分)

●松山市駅から愛媛大学農学部まで

伊予鉄バスをご利用の場合

8番線(東野経由道後温泉駅前行き)「愛大農学部前」下車(約15分)

●キャンパスマップ



- | | | |
|------------|------------------|-----------------|
| 1. 農学部本館 | 7. 制御化農業実習戸棟 | 13. 図書館農学部分館 |
| 2. 農学部2号館 | 8. 実験室 | 14. 連合農学研究科 |
| 3. 農学部3号館 | 9. ライシメーター | 15. 農学部会館(生協食堂) |
| 4. 大講義室 | 10. 環境産業研究施設 | 16. ユーカリ会館 |
| 5. 三科実験室 | 11. RI 実験施設 | 17. 拓翠寮 |
| 6. 農業工学実験室 | 12. 総合科学研究支援センター | 18. 附属高等学校 |

※大会議室は農学部本館2階にあります。第11講義室は農学部2号館1階にあります。

【別 紙】

1. 個別報告の要旨原稿の様式・申し込み方法、プレゼンテーション用ファイルの送付、個別報告論文投稿に際しての注意事項などについて

(1) 個別報告の要旨原稿の様式

- ① 要旨原稿のフォーマットは、本学会HP (<http://www.soc.nii.ac.jp/arfe/>) の「研究大会」－「個別報告－申し込み要項」にある報告要旨様式（作成要領・見本）を参照して下さい。
- ② 要旨原稿は、ワープロで作成したファイルを、必ずPDFファイルに変換して下さい（A4サイズ、1枚）。
- ③ ファイル名は、下記の事例を参照して下さい。
例) (単独の場合) ○○大学・徳島花子.pdf
(複数の場合) ○○大学・徳島花子他.pdf
また、所属機関の書き方は、下記の事例を参照して下さい。
例) (社会人の場合) ○○大学
○○研究所
(大学院生の場合) ○○大学大学院
(学部学生の場合) ○○大学△△学部
(日本学術振興会特別研究員の場合) 学振特別研究員・○○大学

(2) 申し込み方法

- ① 個別報告の申し込みおよび要旨原稿ファイル（PDFファイル）の提出は、今年度からHP上で行うことになりました。
- ② 当該HPのURLアドレスは、
<https://business.form-mailer.jp/fms/4367c6241790>
です。
パスワードを聞いてきますので、**20110818** と入力してください。
(当該パスワードは、極めて重要ですので、くれぐれも管理にご注意下さい。)
なお、本学会HPの「研究大会」－「個別報告－申し込み要項」にも上記アドレスをリンクしていますので、そちらを利用して頂くことも出来ます。
- ③ 個別報告要旨は、当日配付する資料等には収録しておりません。個別報告要旨は学会HPにアップし、大会期間中は受付場所で閲覧できるようにしておきます。
- ④ 個別報告希望者は、**8月18日(木) 23時まで**に、上記のURLアドレスを開いて、「地域農林経済学会 個別報告 申請フォーム」に必要事項を入力して下さい。また、フォームの「Ⅷ 個別報告要旨のファイル（PDF形式に限る）を添付して下さい。」の欄では、**参照**のボタンをマウスでクリックし、すでに作成された要旨原稿ファイル（PDFファイル）を選択して下さい。
- ⑤ 一連の操作が終わりましたら、**確認画面へ**のボタンをクリックして下さい。入力された事項が、一覧になって現れますので、入力ミスがあれば、**戻る**のボタンをクリックすれば、何度でも修正することが出来ます。
もし、ミスがなければ、**送信する**のボタンをクリックして下さい。
- ⑥ 以上の結果、返信メールが、連絡先メールアドレスに送られる仕組みになっています。

数時間たっても連絡先メールアドレスに、受付完了のメールが届かない場合には、再度申請をお願いいたします。

- ⑦ 返信メールにも入力一覧が掲載されています。もし、申請の訂正等がありましたら、ChiikiNourinKeizaiGakkai@gmail.comまでご連絡ください。
- ⑧ なお、「地域農林経済学会 個別報告 申請フォーム」入力に関する質問は、電話では一切受け付けていません。
- ⑨ 筆頭報告者は、必ず、本学会の会員であることに限られます。非会員の場合は、本学会HPの「学会入会の案内」(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/arfe/member/member.htm>)から、入会申込書(PDF形式)をダウンロードし、必要事項をご記入の上、**8月18日(木)午後5時(必着)までに**、学会事務局あてに郵送ないしファックス送信してください。さらに、入会金1000円と学会費を、学会事務局の郵便貯金口座へ、**8月18日(木)午後5時までに**、**学会事務局で振り込みが確認出来るように**、手続きを済ませておいて下さい。

(3) 個別報告等で使用するプレゼンテーション用ファイルの送付について

- 1) 個別報告および大会セッションで、パワーポイントあるいはPDFファイルを使用する場合
 - ① 個別報告会場に備え付けのプロジェクターとPCで報告していただきます。
 - ② PCのOSは、Windows XP、パワーポイント用ソフトは、オフィス2007、PDF用ソフトは、Adobe Reader v.9 です。送付される前に、上記のOS、ソフトで使用可能か、必ずご確認のうえ、お送り下さい。Windows7をご利用の方は特にOSの違いにご留意ください。
なお、上記のOS+ソフトをご使用でない方は、変換ミス等で使用できない等のトラブルに備えて、紙媒体も持参されることをお勧めします。事務局では、PCへの入力が必要な場合でも、変換等のお手伝いはしません。
 - ③ パワーポイント、PDFファイルのプレゼンテーション用原稿は、当日の混乱を避けるため、**10月20日(木)午後5時までに**、開催校担当・中道宛て(下記アドレス)に送付してください(時間厳守:事務多用のため、締切以降は受け付けません)。
 - ④ 会場でのPC使用の便宜のため、パワーポイント、PDFファイルには、タイトルに、報告者がわかるように名前を付けておいてください(例:○○○中道)。
 - ⑤ 大会セッション報告については、コーディネーターが一括して送ってください。

<パワーポイント、PDFファイル電子媒体の送付先>

愛媛大学農学部・中道仁美(報告担当): HitomiNAKAMICHI@agr.ehime-u.ac.jp

- 2) 個別報告および大会セッションで紙媒体を用いる場合
従来通り、聴講者数分の部数を用意して、当日報告会場に持参してください(事務局では印刷の斡旋はしません)。

3) OHPは利用できません。

(4) 個別報告論文として投稿を希望する方へ

- ① 「地域農林経済学会大会個別報告論文投稿要領」(下記参照、以下、個別報告論文投稿要

領と略す)の2にしたがって、10月10日(月)(消印有効)までに、「大会前提出原稿」を個別報告座長(②)、および地域農林経済学会編集委員会(「個別報告論文投稿要領」の末尾に掲載)の両方宛てに、1部ずつ郵送して下さい(片方のみへの郵送、電子メールの受付は認められませんので、ご注意ください)。

- ② 個別報告座長については、学会HPで確認してください(9月中頃掲載予定)。
- ③ 個別報告終了後に提出して頂くことになる個別報告論文の投稿方法・締め切り等については、大会前に学会事務局から投稿案内が郵送される予定です。個別報告論文の書き方・提出方法等については、「個別報告論文投稿要領」の3～6および11を参照してください。
- ④ 連名報告での報告者の順位と、個別報告論文での執筆者の順位は、同じでなければなりませんので、ご注意ください。
- ⑤ 詳しくは、学会誌巻末または学会ホームページの「個別報告論文投稿要領」を参照してください。

<http://www.soc.nii.ac.jp/arfe/journal/kobetuhoukoku%20guide.htm>

本学会のHP - 「学会誌」 - 「個別報告論文投稿要領」

2. 個別報告優秀賞の応募方法について

- ① 個別報告優秀賞は、個別報告の中から優秀な論文を選考するものですから、報告は通常の個別報告と同様、個別報告会場で行っていただきます。
- ② したがって、個別報告優秀賞に応募される方は、まず、個別報告に申し込んでください。申し込み方法、プレゼンテーション用ファイルの送付方法、「大会前提出原稿」の送付方法等は、個別報告のみ申し込まれる方と、まったく同じです(【別紙】1参照)。
- ③ そのうえで、個別報告を申し込まれる際に、「地域農林経済学会 個別報告 申請フォーム」の質問項目のうち、【VII 個別報告優秀賞への応募を希望しますか?】、【「はい」と希望した場合には、2012年4月1日時点での筆頭報告者の年齢を入力してください。】、【今回の応募は、研究論文等として投稿中の研究ではありませんね?】に、必要事項を記入し送信してください。なお、個別報告優秀賞への応募できるのは、2012年4月1日時点での筆頭報告者の年齢が37歳未満の場合です。また、すでに研究論文等として投稿中の研究は応募できません。ご注意下さい。
- ④ さらに、①のように、「大会前提出原稿」は、紙媒体で提出するとともに、PDFファイルに変換した電子媒体を、ChiikiNourinKeizaiGakkai@gmail.comまで、10月10日(月)23時まで、必ず提出して下さい。

3. 個別報告、個別報告優秀賞に関する書類の送付先、問い合わせ先など。

(1) 個別報告の「申し込み」、個別報告優秀賞審査対象論文の「応募」に関する問い合わせ先

企画担当理事(岡山大学・横溝 功：agsys@s.okayama-u.ac.jp)

*学会事務局では、問い合わせは受け付けておりません。

(2) 個別報告「大会前提出原稿」に関する問い合わせ先

編集委員長(名古屋大学 荒山裕行：arayama@soec.nagoya-u.ac.jp)まで。

*学会事務局では、問い合わせは受け付けておりません。